

# 「薬物を使うことがある」と 誰でも安心して話せる支援がある社会とは ～ハームリダクションで出会う～

「薬物をやめたくて」と言う人を応援してくれる場所が増えてきました。嬉しいことです。けれど、「薬物を使うことがあって…」と言うと、警察に通報されたり、使わない方法を見つけよう、と言われてたりします。そうすると、その人は困りごとがあってもどこにも相談できないと思ったり、もう話さなくなったりします。

注射器の共有で感染症にかかった人がいます。注射器は身近なものできちんと消毒することができます。その人は「薬物を使っていた頃に知っていたら、感染しないで済んだかも」と言いました。そうした情報が必要な人に届くことはとても大切です。

市販薬や処方薬を過剰に使う（オーバードーズ）人もいます。ハームリダクション東京では、薬物を使うことを安心して話すことができ、暮らしや健康、命を守るために役立つチャットを昨年始めました。日々たくさんの人とやりとりをしています。ほとんどが使っている本人で、子どもや女性たちも多くいます。

薬物を使う人を逮捕して排除したり、やめるように強制したりすると、使うのが止まるのではなく、どんどん見えなくなります。正直に安心して話せる支援や政策のある社会になれば、本人も家族も、そして社会全体にとっても、暮らしやすくなると思えます。一緒に考えることができれば嬉しいです。

## ■ゲスト： 古藤 吾郎さん



精神保健福祉士。ハームリダクション東京共同代表、日本薬物政策アドボカシーネットワーク (NYAN) 事務局長。2005年に米国コロンビア大学大学院にてソーシャルワーク修士課程修了。薬物使用に関わるアドボカシーやハームリダクション (HR) を学ぶ。NPO 法人アパリにて HR を取り入れた相談支援を担当し、2015年に NYAN を立ち上げ、2021年にハームリダクション東京でのサービスを開始。その他に DV 加害者男性教育プログラム (RRP 研究会) にも従事。東京大学先端科学技術研究センター 熊谷晋一郎研究室の協力研究員。

## ■ゲスト： 上岡 陽江さん



精神保健福祉士。ダルク女性ハウス施設長、ハームリダクション東京共同代表、東京大学先端科学技術研究センター当事者研究・熊谷晋一郎研究室の協力研究員。10代から処方薬依存・摂食障害・アルコール依存を経験し、20代半ばで回復プログラムにつながる。1991年に薬物・アルコール依存をもつ女性をサポートするダルク女性ハウスを設立。依存症の母親とその子どものための包括的な支援に注力。当事者への支援に加え、援助職者のための研修やスーパーバイジング、トラウマインフォームドケアに基づくグループワークなどにも従事。

■日時：2022年5月14日(土) 13:30～16:00 ※受付時間 13:00～13:25

■会場：オンライン開催

※オンライン会議システム・Zoomを使用。スマホやPC等のインターネット端末から参加いただけます。参加方法の詳細は、お申込みくださった方に5月13日までにメールいたします。グループ対話セッションや、ゲストとの対話も行う予定です。聞くだけの参加も可能ですが、この対話の場を一緒につくれるよう、お声を出していただけたら幸いです。参加者さまのお顔は写らないよう初めはこちらで設定しますが、グループ対話中は、自主的にお顔を写していただけます。

■参加費：無料 ※先着50名様。申込締め切り：5月12日または定員に達した時点の早い方。

■主催：NPO法人まちぼっと ソーシャル・ジャスティス基金 (SJF) <https://socialjustice.jp/> メール [info@socialjustice.jp](mailto:info@socialjustice.jp)

■お申込みページ：<https://socialjustice.jp/20220514.html> ※完全事前登録制。当ページからのみ受付